

竹田陽一の経営随筆集

2022年4月12日 第7号



良い本・悪い本・普通の本 その3

5. 中心となるテーマの構成要因をはっきりと示してない

悪い本の5番目はその本で、テーマを構成している「中心的な要因」を、はっきりと示さずに書いているものになります。

どんなテーマであったとしても、必ずそれを構成している「大事な要因」がいくつかあるはずです。読者が応用しやすいようにするには「科学的な問題解決法」に従って、本のテーマを構成している「中心的な要因」を、はっきりと示しておくべきですが、意外なことにこれを示している本は滅多にありません。ではその事例を2つ紹介しましょう。

1つ目は、リーダーシップです。

リーダーシップは、計画したものを従業員とともに「実行に移す」とき、とても重要な仕事になるので、社長にとっては最後の仕上げになります。

ところがリーダーシップについて書かれている本で、まず初めにリーダーシップを構成している「中心的な要因」をきちんと示し、そのあと中心的な要因のレベルの高め方を説明している本は、これ迄読んだ本の中で1冊しかありません。

ほとんどの本は、「リーダーはこうすべきだ、ああすべきだ」と、いくつかの項目を「ダラダラ・長々」と説明しているので、本を読ん

でいて、今、自分がなにを学習しているのか、解らなくなってしまう。これでは役に立ちません。

2つ目は、社長の実力の高め方や、社長の仕事について書かれていた本になります。

社長の実力の高め方や社長の仕事を説明するには、まず初めに、「社長が責任を持って担当すべき仕事」、あるいは「社長でなければ担当できない仕事」を、はっきりと示さなければなりません。

しかし社長が、責任を持って担当しなければならない仕事は、経営規模の大中小で大きく変わるので、このようなテーマで説明する場合は「何人規模の会社を中心にしています」と、はし書きの終わりか目次の前に示しておくべきでしょう。

そのあと、社長が責任を持って担当すべき役目の正しいやり方を説明していけば、本を読む人は理解がしやすくなるはずです。ところが社長の実力の高め方や社長の仕事など、これに近い題名の本を何冊か買いましたが、このようにしている本は1冊もありません。社長が責任を持って担当すべき役目を示さず、あれこれと説明したのでは、本を読んだ人は応用できなくなります。これでは悪い本になってしまいます。

このあとあなたが持っている本箱の中から数冊を取り出して、このような観点でチェックしてみてください。

6. 大事な要点のウエイト付をしてない

悪い本の6番目は、大事な要点のウエイト付をしてないものになります。

経営書や自己啓発書を読むと例外なく、「より多くの成果を出すには、重要度が高い仕事から先に手掛けるべきだ」と書かれています。確かにそうです。しかし重要度が低く、どうしても良い仕事から先に手掛け、業績を悪くしようと考えて仕事をする人は、1人もいないはずで

であるならば、経営を構成する「大事な要点」はもちろんのこと、仕事を構成している「大事な要点」の1つ1つが、「何%ずつの比率」になるか、ウエイトを示しておかなければなりません。こうすれば重要度が高い仕事はどれとどれになるか、これが解るので成果を出すのに役立ちます。

もちろん大事な要点のウエイト付は「適当に」するのではなく、オペレーションズ・リサーチの手法や、統計学の応用が必要になります。

ところが説明しているテーマを構成している大事な要点の、ウエイト付をしている本をこれまで見たことがありません。こうなると「あれも重要、これも重要、みんな重要」という、総花主義になってしまいます。これでは、より多くの成果を出すには「重要度が高い仕事から手掛けるべきだ」と、説明している意味がありません。

もちろん、文章のすべてについてウエイト付をすることはないでしょうが、重要度が高い部分については、ウエイト付をするべきでしょう。

これ以下は次号に続く。

Lanchester ランチェスター経営（株）

〒810-0012 福岡市中央区白金 1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>

